1.法改正の概要



労働安全衛生法の改正概要

事業者及び労働者がその危険有害性を認識し、事業者がリスクに基づく必要な措置を検討・実施する仕組みを創設するものであり、労働安全衛生法施行令別表第9に掲げる640の化学物質及びその製剤について、3つの対策を講じることが柱である。 ■施行日 平成28年6月1日

- ①譲渡又は提供する際の容器又は包装へのラベル表示
- ②安全データシート (SDS) の交付
- ③化学物質等を取り扱う際のリスクアセスメント

平成29年3月1日 640⇒663物質

施行前 施行後 石綿等 8物質 リスクアセスメント義務 安全デー 121物質*1 PCB等 (特にリスクの高い業務あり) リスクアセスメント努力義務 基づく措置の努力義務)
(リスクアセスメント結果に 基づく措置の努力義務) 663物質*2 9 - 定の危険・有害な物質 ル表示努力義務 (SDS交付努力義務) (ラベル表示努力義務) (SDS交付努力義務) (リスクアセスメント *1: 平成29年6月1日現在 ト結果に 約6万物質 *2: 平成29年3月1日現在 : 平成30年6月1日、石綿追加 : 平成30年7月1日、10物質追加 合計673物質



リスクアセスメント義務化

- 平成28年6月1日以降は、ラベル表示・通知対象物質が対象(第57条3項)
- ▶ ただし、H24のJISZ7253改正時に、GHSで危険有害性物質もラベル表示・ 通知対象の努力義務が課せられていることに注意
- 673物質以外の物質・混合物も、GHSで危険有害性があれば、リスクアセス メントを行う努力義務

表示対象物質・通知対象物質

673物質

ラベル・**SDS**義務

個別規制 121物質

その他の危険有害性の物質 : 約 6万物質 ラベル・SDSの努力義務



RAの事前準備/情報入手

リスクアセスメントの対象の選定

何を?

化学物質等の危険性または有害性

とこを?

- 対象化学物質等を製造または取り扱う行う業務(1つの工程または複数工程を事業場の実態に即して決定)
- 定常作業・非定常作業の両者を含む

情報の入手等

必須

- 危険有害性に関する情報(SDS 等)
- 作業状況に関する情報(作業標準、手順書、設備情報)

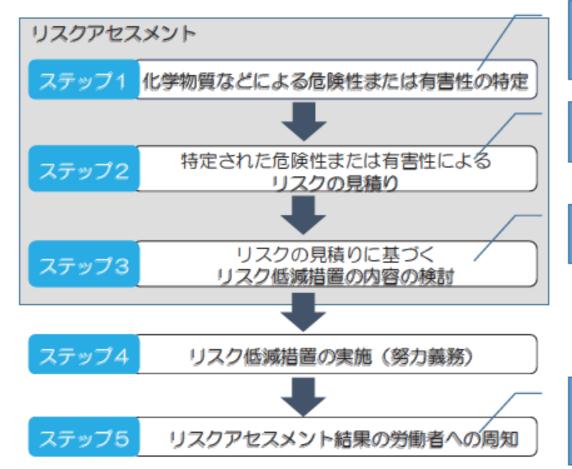
必要な場合

- 作業の周辺の環境(設備等)に関する情報
- 作業環境測定結果等
- 災害事例、災害統計等
- その他、RA等の参考となる資料等

事業場内のどの作業でどのような化学品を使用しているのか? 使用している化学品のSDSは入手済か?



リスクアセスメントの手順



SDSに記載された危険有害性 (GHS分類結果、ばく露限 界)はどの程度か?

化学品を使用している作業におけるリスクはどの程度か?

リスクを低減するためにでき <u>る措置は何</u>?

使用している化学品の危険有 害性・リスクを周知し、作業 手順等のルールの徹底を促す

出典:厚生労働省パンフレット「労働災害を防止するためリスクアセスメントを実施しましょう」

2. 化学物質リスクの重大性



リスクアセスメントの義務化

特に危険有害な物質とされている<u>特別規則の物質以外でも、使用量や使用法によっては労働者の安全や健康に害を及ぼすおそれ</u>があり、対策を強化することが必要である

(胆管がん事案の原因物質は、発生時、特別規則の対象外であった)

<u>一定の危険有害性が確認された物質</u>について リスクアセスメントを義務化

- リスクアセスメントは化学物質等の持つ危険有害性を特定し、労働者への危険 または健康障害を生じるおそれの程度を見積り、リスク低減措置を検討する (該当する場合には危険性と有害性の両面で)
- 義務対象の化学物質等を製造・取り扱うすべての事業場が対象である(規模・ 業種の限定なし)
- 義務対象以外の危険有害性を有する化学物質等は努力義務
- リスクアセスメントの結果に基づき、労働安全衛生法令の措置を講じる義務があるほか、労働者の危険又は健康障害を防止するために必要な措置を講じることが努力義務となる
- 施行時期:平成28年6月1日



化学物質のリスク

危険性に関するリスク

発生した場合の重篤度

個々の化学物質が有する危険性



発生可能性

- 取り扱い状況
- 設備等の状況

有害性に関するリスク

有害性

個々の化学物質が有する有害性



ばく露

作業、環境、製品等を経由して ヒトが化学物質を吸ったり、食 べたり、触れたりして体内に取 り込むこと

- ◎「有害性」が大きくても、「曝露量」が少量ならリスクは小
- ◎「有害性」が小さくても、「曝露量」が大量ならリスクは大



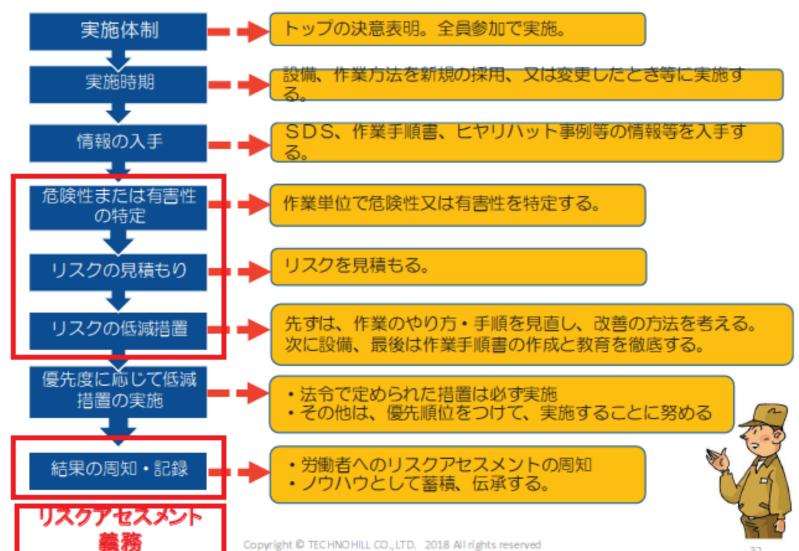
化学物質の危険有害性の特徴

危険有害性の 種類		危険有害性の例	顕在化までの 時間	リスク 見積り	関連 法規制
物理化学的危険性		爆発、火災等	短時間で 顕在化	重篤度×ス	消防法
健康有害性	急性障害	吸入や接触によってす ぐに出る症状(頭痛、 吐き気、アレルギー、 薬傷、中毒死等)	(二事故に よる)	発生可能性X	労働安全衛生法
	慢性障害	長時間をかけて内臓等 に生じる症状(がん、 臓器障害、生殖障害 等)	長時間をかけて顕在化 (二定常作 業による)	〈近く露	

※化学物質の危険有害性には環境影響を踏まえた「環境有害性」もある



リスクアセスメント (RA)の流れ



3.導入のメリット

- ~建設業~
- ★お客様からの信頼UP!!
- ★経営審査点数UP

- ~塗装業~
- ~製造業~
- ~ 印刷業~

- ★品質・安全の管理責任
- ★ISO等の取得、維持に
- ★お客様からの信頼UP!!

- ~廃棄物処理業~
- ★お客様からの信頼UP!!
- ★優良産廃の取得・維持に

4.サービスの概要

法定の化学物質リスクアセスメントを委託して頂き、代行して実施し、 結果・記録を提供します

物質数	アセスメント実施料金 (消費税込)
5種類(品目)まで	33,000
10種類(品目)まで	55,000
20種類(品目)まで	88,000

※20種類(品目)以上は別途お見積させていただきます。

申し込みは



FAX様式

お問い合わせは



m-ems@kk-tohoku.or.jp